

立山町公共交通活性化協議会庁内WG（第1回）の開催結果について

1 会議の概要

- (1) 日 時 令和7年8月6日（水） 9時30分～10時55分
 (2) 出席者 庁内WG構成員 12人
 (3) 議 事 ① 立山町地域公共交通計画の策定に向けた議論の経過について
 ② 各所属が取り組む（予定含む）公共交通関連施策について
 ③ 立山町地域公共交通計画に位置付ける施策・事業について

2 主な意見

- (1) 立山町地域公共交通計画に位置付ける施策・事業について

- ・公共交通の利用増には、仕組みづくりや体制の整備・強化、より直接的な働き掛けなどが必要とされている。
- ・運転手不足の課題は、教育分野にも影響を及ぼしている。

発言者	意見概要
商工 観光課	・現在、企業を誘致できる土地がある利田地区には、公共交通が不足しているという課題があるため、バスの運行などを含めた課題の解決方法をあわせて考えていく必要がある。 ・誘致した企業の社員の通勤手段等を自家用車から公共交通に切り替えることを促す助成等の取組については、検討できると思う。また、企業の方の話を聞いていると、まだまだ公共交通利用に向けた意識付けの取組については、アプロ一チできる余地があると思う。
商工 観光課	・買い物バスは廃止となったが、現在は町営バスでその需要をカバーできている。 ・まちなかで行った過去のイベントの経験から、駐車場不足による渋滞等への対策の一環として、特典なども含めた公共交通利用による来場促進の仕組みづくりが必要と感じている。また、今後町でない一般の方々が行うイベントにも、こうした公共交通との連携を広げていくためには、相談窓口の体制づくりや連携事例の紹介などを行っていくことが重要である。
商工 観光課	・立山黒部アルペンルートとその周辺を結ぶ公共交通は、特に町営バスが運休となる日曜日には不十分であるとの声を聴く。また、富山地方鉄道立山線から降りた後の2次交通も不足しており、デマンド交通などがあればといった声もある。町や観光協会は、2次交通としてE-BIKEや電動キックボードを整備しているが、いずれも利用できる方が限られる点が課題となっている。
教育 委員会	・スクールバスの運行の面でも、交通事業者の人材不足は大きな影響を及ぼしている。また、人材不足に起因するこの春からのバスの運行時間繰上げにより、教員の始業時間前に登校する児童が生じるなどの課題も出てきている。今後の学校統合の際にも、人材不足が影響してくることを懸念している。
教育 委員会	・町立小学校の適正規模・適正配置推進計画の中でも、通学手段の確保は検討事項となっている。また現在、一部の学校ではプールの授業を常願寺ハイツで行っており、その移動手段として、スクールバスを活用している。現在のところ希望する学校数が少ないため、影響が出ていないが、今後これが増えた場合にどこまで対応できるのか不安がある。

	・<u>立山登山学習</u>では、昔は地鉄電車を利用していた学校もあったが、現在はほとんどなく、補助対象外である貸切バスで移動する学校もある。この部分は<u>補助制度をうまく活用</u>してもらえる余地があるのではないかな。
建設課	・昨年度末に策定した立地適正化計画に基づき、今後、町中心部に人を誘導することで、公共交通の利用促進につなげていきたい。また、同じく改定した都市計画マスタープラン上の<u>地域生活振興拠点</u>には、<u>3駅を位置付けている</u>。いずれも学校が近接している場所であり、こうした場所にも宅地造成を誘導していきたい。近年は<u>公共交通機関の有無を気にせずに居住地を選ぶ</u>方が一定いるが、その部分は<u>大事なポイント</u>であると思っている。原則、新たな道路はつくりず、町中心部の歩道の拡幅等により公共交通利用につながる歩行者にやさしい道づくりを行っている。 ・現在活用している補助金の交付要件として、<u>1時間に3本運行</u>されている公共交通機関が存在しているというものがあるので、この点についても維持できるよう交通事業者働き掛けてほしい。
健康福祉課	・医師会の方に聞いてみたところ、高齢化が進む中、自力で受診できない方が多くなっていることから、<u>病院等の近くにバス停を設けてほしい</u>とのことがあった。 ・電車については、町が行う<u>あーとれいんや沿線のスポット・風景を効果的に周知</u>できればより利用が増えるのではないかと感じた。また、高齢者が都合悪くなったときにはじめて公共交通利用にシフトするのではなく、<u>早いうちから使えるような仕掛け</u>などができればよいと思う。 ・最近、町営バスの<u>妊婦運賃無償化の取組についての周知</u>を始めたところ、良い反応を頂いている。今後は、バスを利用して行ける遊び場等についても、<u>子育て世帯等に併せて案内</u>できればよいと感じており、こうした機会を通じて<u>公共交通に親しんでもらう</u>こともまた大事だと思う。 ・病院バスの公共交通との<u>統合可能性</u>について、その意向を確認してみたが、現状は難しいとのことであった。
健康福祉課	・障害者手帳をお持ちの方で、公共交通を利用される方は多くない。たてポを付与する<u>障害者の外出支援事業の実績</u>によれば、<u>タクシー利用が2割</u>と最も多い用途である。こうした点からも、障害者にやさしい公共交通といった面で、タクシー事業者には是非今後も存続してほしいと思う。
健康福祉課	・<u>交通ポイント付与事業</u>の用途で最も多いものは、タクシー利用である。一方で、2か月ごとに未使用分は失効する制度設計となっており、この点には疑問の声も寄せられている。公共交通利用促進につながることから、この<u>対象者の範囲を拡大することについては、予算の確保という課題はあるものの、検討の余地はある</u>と考える。
健康福祉課	・保育所児童の送迎バスも、一種の公共交通なのだと再認識した。今後は、安全確保に努めていかなければならないと思っている。<u>保育所の子供たちに、「バス・電車の運転手はカッコいい」と思ってもらえるきっかけ</u>がたくさんあればよいのではないかな。
住民課	・町営バスは、利用者は減少傾向にある一方で、<u>委託金額が増加傾向</u>にある。こうした中で、<u>芦峯寺線は今年度から地元への運行に移行</u>した。ダイヤ改正では、これまでの五百石駅を中心とした設定の考え方を一部変更し、買い物利用を考慮したものとしたが賛否両論がある状況である。今年度は、<u>デマンド等の導入可能性を含めた町営バスの見直し業務</u>を行っており、この中で、<u>スクールバス、福祉バス等との連携可能性や、地鉄駅を中心とした運行の可能性</u>につい

	でも検討していきたいと考えている。また、今年の子鉄のダイヤ改正に伴い、今冬には、交通空白となる時間が一部地域で発生する見通しであるが、この部分への対応についても検討していきたい。利用促進策として現在取り組む立山町民お気軽パスについては、富山市への移動時などでは使いにくい部分があるので解消したいと考えているが、ここはなかなか難しい。
--	---